

平成7年度博物館講座の応募者動向について

久松洋二 岩田憲二 徳永保固 渡部いさみ

愛媛県総合科学博物館 振興課

〒792 愛媛県新居浜市大生院2133番地の2

はじめに

愛媛県総合科学博物館では、教育普及の核となる事業として、博物館講座を開催している。博物館の3つの調査研究科である自然研究科、科学技術研究科、産業研究科に準じて、その基礎的な知識、技能ならびに各種学術成果を、より多くの人に還元するために、自然観察会、自然科学教室、天体観測会、科学工作教室、科学実験教室、産業史講座の6種類の講座を行っている（写真1）。各講座は、それぞれの講座の趣旨に応じた対象年齢、定員を設け、より広い県民のニーズにこたえ、そしてより多くの県民の参加を促すべく全61講座にもものぼる。

本稿では、平成7年度に開講したものの中で、平成7年12月末までの応募者の動向についてまとめる。



写真1 博物館講座実施風景

表1 地域別応募者動向

| | 応募地域 | 応募件数 | 応募世帯数 |
|-------|--------|-------------|-------|
| 東予 | 川之江市 | 92 | 35 |
| | 伊予三島市 | 104 | 40 |
| | 宇摩郡 | 93 | 38 |
| | 新居浜市 | 1359 | 262 |
| | 西条市 | 266 | 92 |
| | 周桑郡 | 95 | 19 |
| | 東予市 | 77 | 28 |
| | 今治市 | 48 | 15 |
| | 越智郡 | 28 | 11 |
| | 計（東予） | 2162(95.4%) | 540 |
| | 中予 | 北条市 | 12 |
| 松山市 | | 34 | 15 |
| 温泉郡 | | 20 | 6 |
| 伊予市 | | 1 | 1 |
| 伊予郡 | | 1 | 1 |
| 上浮穴郡 | | 1 | 1 |
| 計（中予） | | 69(3.0%) | 27 |
| 南予 | 喜多郡 | 0 | 0 |
| | 大洲市 | 8 | 1 |
| | 西宇和郡 | 5 | 3 |
| | 東宇和郡 | 0 | 0 |
| | 北宇和郡 | 3 | 1 |
| | 宇和島市 | 6 | 3 |
| | 南宇和郡 | 2 | 1 |
| | 計（南予） | 24(1.0%) | 9 |
| その他 | 香川県 | 16 | 5 |
| | 高知県 | 3 | 1 |
| | 徳島県 | 0 | 0 |
| | 京都府 | 2 | 1 |
| | 計（その他） | 21(0.9%) | 7 |
| | 不明 | 13(0.9%) | 13 |
| | 合計 | 2289(100%) | 596 |

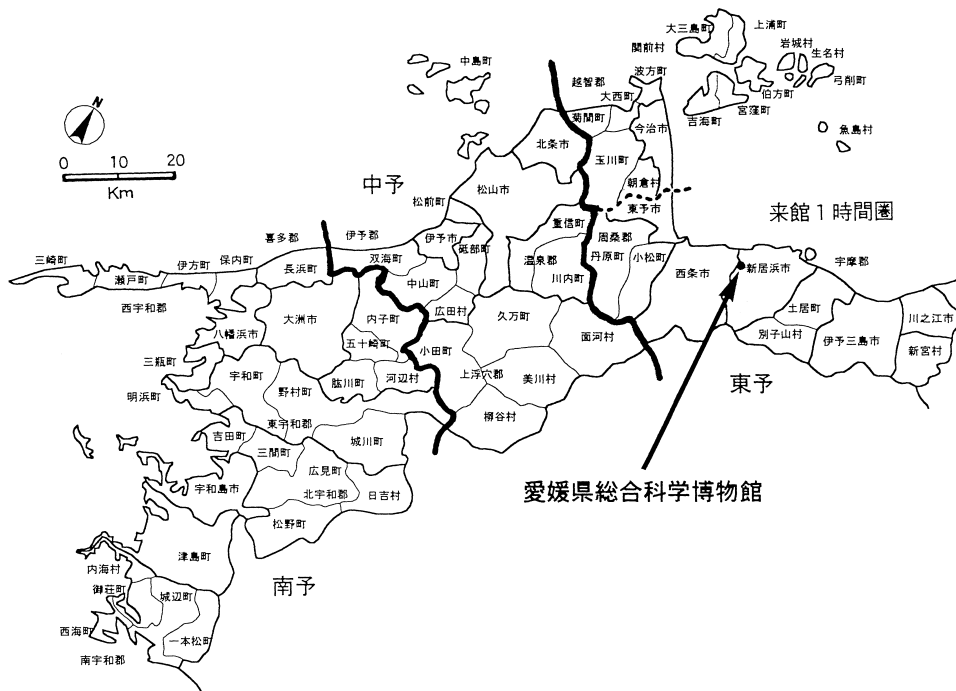


図1 愛媛県市町村図

地域別応募者動向

愛媛県では、その地理的環境から応募者に強い地域性がある。表1は、講座応募者を地域別に分類したものである。ただし、応募件数のうち、保護者同伴が義務づけられているものは保護者込みで1件として数え上げられている。また、応募世帯数は、同一世帯が複数件応募した場合も1件と数えている。

各地域における講座応募者の割合は、以下のとおりである。

| | |
|-----|-------|
| 東予 | 94.5% |
| 中予 | 3.0% |
| 南予 | 1.0% |
| 他府県 | 0.9% |
| 不明 | 0.6% |

愛媛県各地方、市町村は図1に表した。

この結果から、明らかに東予地域に応募者が強く集中していることが分かる。このことを、本県の交通事情および当館の立地条件、またそれともなう来館の際の交通手段といった点から考察する。まず当館は、図1にも示されるとおり、東予地域にある新居浜市、西条市の境に位置する。新居浜、西条両市の中心街から離れているため、来館には最寄り駅からバスまたは車を利用することになるが、バスの本数は少なく、山裾に建てられていることもあり、自動車での来館が最も平易といえる。また当館は、国道11号線、松山自動車道の2本の幹線道路沿いに位置しており(図2)、来館手段の平易さが、幹線道路近隣の地域における来館への動機付けの一因になると考えられる。実際、松山市と北条市の応募の差、香川県からの応募件数に反映されていると思われる。このように、表1の結果か

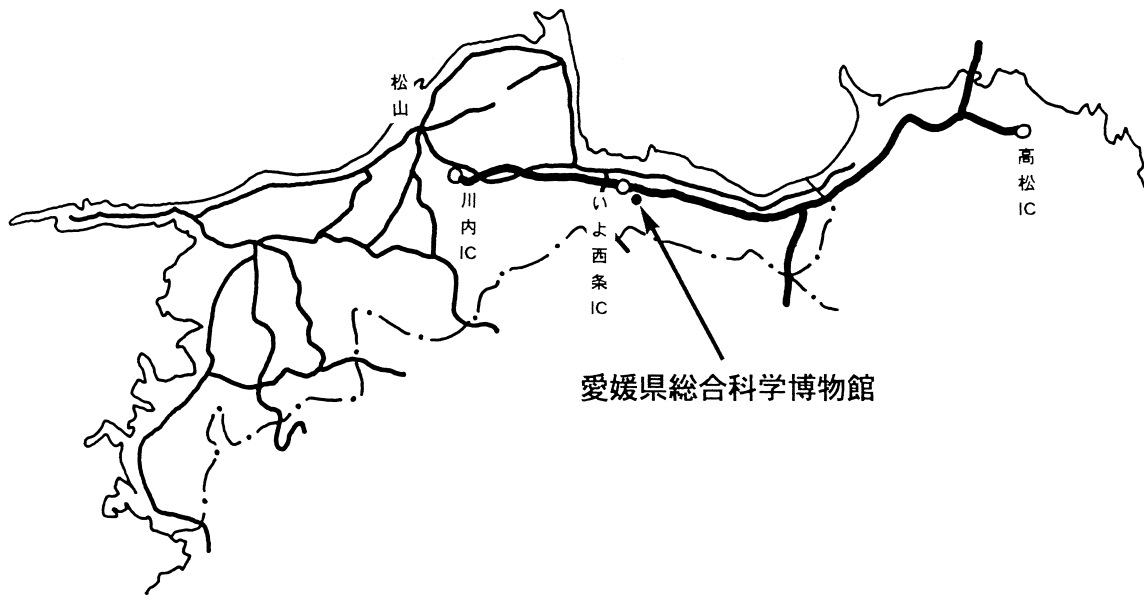


図2 愛媛県幹線道路図，細線は国道，太線は松山自動車道を表す。

ら，自動車による来館時間を指標に，博物館講座の応募地域区分を考えると，来館時間が1.5時間以内を博物館講座応募地域と判断できる。

また，応募世帯数に注目した際，博物館から距離的に離れるにしたがって，その数が連続的に減少する傾向が見られるが，これら応募世帯数の各市・郡ごとの世帯数における割合を求めてみれば，様相は一変することがわかる(表2)。すなわち，今治市，越智郡を除いた東予地方と，それ以外の地域とで区分されるのである。これら東予地方の大部分は，自動車における来館時間の立場で考えると，来館1時間圏としてまとめることができる。さらに，これら来館1時間圏は，表2から川之江市・伊予三島市，宇摩郡・新居浜市・西条市，東予市・周桑郡の3つの地域に細分化される。

このように細分化された博物館講座応募地域は，本県の「自動車交通流からみた交通圏」になる「機能地域区分」(藤目節夫, 1982)に合致しており，博物館講座応募者の地域性には，自動車交通流が重要な役割をすると理解される。

表2 応募割合=応募世帯数/世帯数×100

| 応募割合 (×10 ⁻¹ %) | |
|----------------------------|------|
| 川之江市 | 3.0 |
| 伊予三島市 | 3.1 |
| 宇摩郡 | 6.1 |
| 新居浜市 | 5.9 |
| 西条市 | 4.9 |
| 周桑郡 | 2.5 |
| 東予市 | 2.6 |
| 今治市 | 0.62 |
| 越智郡 | 0.42 |
| 北条市 | 0.33 |
| 松山市 | 0.09 |
| 温泉郡 | 0.48 |

表3 講座別応募者分類

| 講座名 | 総定員数 | 応募件数 | 応募者総数 | 受講希望者総数 | 平均倍率 | 有効倍率 |
|--------|------|------|-------|---------|------|------|
| 自然観察会 | 450 | 500 | 661 | 370 | 1.5 | 0.82 |
| 自然科学教室 | 336 | 180 | 319 | 219 | 0.95 | 0.65 |
| 天体観測会 | 300 | 757 | 1236 | 694 | 4.1 | 2.1 |
| 科学工作教室 | 180 | 435 | 435 | 297 | 2.4 | 1.7 |
| 科学実験教室 | 180 | 242 | 242 | 190 | 1.3 | 1.1 |
| 産業史講座 | 200 | 185 | 185 | 125 | 0.93 | 0.63 |
| | 1646 | 2299 | 3078 | 1895 | 1.9 | 1.2 |

新居浜市における応募者動向

博物館講座の応募のほとんどは新居浜市で、東予地方の来館1時間圏の応募者に限定して考えても、全体の65.1%にもおよぶ、ついで西条市の12.8%、残りの市・郡はそれぞれ全体の5%程度となっている。

新居浜市の応募者に特徴的な点は、1世帯当たりの総応募件数が多い、すなわちリピーターの比率が高いことである。現時点では、地域性によらず、各世帯1回あたり平均1.4件の応募があることが分かっている（当館の博物館講座では、原則的にはがきによる応募の形式をとっている。自然観察会をのぞく博物館講座は、1枚のはがきで参加者1名と講座によってはその保護者しか応募できない。したがって、家族で参加希望するときは複数枚のはがきで応募しなければならない。）が、そのことを考慮すると、新居浜市は平均3.7回応募していることになる。来館1時間圏の平均が2.2回であることから、新居浜市の講座応募頻度の高さがうかがえる。

講座別応募者動向

次に、6種類の講座別の応募動向を調べる。表3に講座種類別の応募者動向を表にした。応募件数は、はがきによる応募件数、応募総数は受講希望者ののべ人数（保護者も1件と計数）、応募世帯数はのべ世帯数、受講希望者数は、同一人物による応募は全体で1件と計数したもの、平均倍率は応募総数を総定員数で割ったもの、有効倍率は受講希望者総数を総定員数で割ったものをそれぞれ表す。

天体観測会と科学工作教室以外は、平均倍率から考えて、ほぼ博物館の設定した定員に見合った応募があった講座と考えられる。科学工作教室は、その有効倍率からリピーターの割合の多さが倍率の高さを生んでいるといえる。天体観測会は、毎回博物館の設定した定員をはるかにこえる応募がある。県民の天体観測の参加に関する関心の高さを物語っているといえよう。もっとも、講座受講者の天文分野に関する知識は概して乏しく、観測よりも観望を希望している場合がほとんどである。天体観測の指導にくわえて、大型の光学機器による観望といった、博物館の備品に対する期待の大きさが、他の自然観察会に対す

る期待と一線を画しているようである。実際、平均倍率4.1倍、最高倍率8.2倍、夏休み期間中の平均倍率が5.2倍と、その異常人気がうかがえる。設定された受講定員が、自然観察会の50名に比べ、30名と少ないことも倍率の高さの一因ではあるのだが、機材の数、天文台のスペースといった物理的制約から得られた定員であるため、倍率緩和の手だては少ない。例えば、特に応募の多い夏休みだけ2日連続で開講するなどすれば、実質的に倍率は減ることが予想されるが、テーマ数が犠牲になることや、他の講座との調整等が難しい。

講座のスケジュールに関して、通常博物館講座は週末に開講しているのだが、夏休みのみ平日に開講したものがある。これらは、工作教室など対象が生徒のもの以外に、自然観察会をはじめ一般対象の講座も含んでいる。その結果、受講希望者の分布には、何も目立った変化は得られず、応募者の年齢比率は平常と全く変わらなかった。休日、当館は職員半数の勤務態勢であるから、通常の博物館講座開講時には館内の対応がどうしても、手薄にならざるを得なかった。したがって、この結果は非常に有用で、休日の勤務体制を考慮して、夏休みだけでも博物館講座を平日に開講すべきであることが分かった。

科学工作教室、科学実験教室は、講座ごとに対象年齢が違っていた。このことに関して応募動向に何ら目立った結果はなかった。対象年齢が高い（小学校3・4年生以上）ときは毎回、対象年齢外だが受講できないか、との問い合わせがあるが、対象が小学生以上の講座に、何がしか応募数の増減といった変化は見られなかった。

まとめにかえて

当館は、開館してようやく1年余りが過ぎようとしているところである。県民が、とりわけ東予地域の方が何を望んでいるのか、当初博物館が予想した多くのことと、博物館近隣の方の期待とのギャップが、ようやく少しずつ見えだしてきた。今年2年生の当館には、基本的なことさえ、まだまだ試さなければならないことが多い。博物館がこれから活動していく上で、ようやく見えだした周りのことを少しずつ取り入れ、よりよい博物館づくりを目指さなければならない。

文献

愛媛県総合科学博物館（1995）「愛媛県総合科学博物館年報 平成6年度」. 40p

愛媛新聞社編（1995）「愛媛年鑑」. 1016p

愛媛県統計協会編（1995）「愛媛のすがた 95」. 32p

藤目節夫（1982）愛媛県の地域区分と地域設定に関する研究. 愛媛大学地域社会総合研究所研究報告. Ser.A. 18, 71-77